

増え続ける上海の自動車と新車登録の制限

岡山県上海事務所 池田 稔

(日中経済貿易センター上海事務所 所長)

自動車増加がもたらす問題

昨年（2010年）の中国の自動車販売台数は1,806万台と前年比で32.4%も増えました。ここ数年は、凄まじい勢いで、まるであふれるかのごとく自動車が増えており、各都市では道路整備が繰り返されていますが、自動車の増加に追いついていません。

上海では昨年の万博開催に合わせて、高速道路、高架道路、立体交差などの道路整備が進められたため、それ以前に比べると道路渋滞は若干緩和された感もありますが、車は引き続き増え続けており、現在でも各所の渋滞は悩みの種です。また、駐車スペースの確保もますます難しくなっています。筆者の住むマンションは2004年から入居が始まったもので、地下駐車場を含めて一定の駐車スペースが設けられています。しかしながら設計当時に比べ乗用車の普及率が大きく増加したため、今では敷地内の道路や公共スペースまで駐車スペースになってしまい、当初は緑いっぱいのマンションだったものが、今では車でいっぱいになってしまいました。

上海市の政策

上海市ではこれらの問題解決のため、道路や地下鉄の建設に加え新車登録の制限を行っています。具体的には自家用車のナンバープレート（以下、「ナンバー」という。）の発行枚数を月8,000～9,000枚程度に抑えています。この枚

数は市民の乗用車購入ニーズに較べるとかなり少ないため、そこには競争原理が生まれ、ナンバー取得に競売制度が取り入れられています。

この制度の下、自動車購入者は、所定の手続きを行った後に、ネット上で行われる競売参加用ソフトウェアを購入し、前月までのナンバー発行枚数と落札価格を調べ上げたうえで、毎月一回ネット上で行われる競売に参加します。入札価格が低ければ落札できず、購入した車に乗ることもできないし、高すぎても無駄な出費になるので、入念な下調べが必要です。この落札価格は今年に入り上昇を続けており、7月は9,000枚の発行に対して、21,852人が入札し、平均落札価格は51,174元でした。この制度は、上海市に対し、自動車増加の抑制効果だけではなく、大きな収入ももたらしています。

上に政策あれば、下に対策あり

こうした取り組みの結果、上海での新車購入時の諸費用は、車体価格150,000元の乗用車を購入した場合、税金、諸費用、強制保険料及び任意保険料（最低レベル加入）の合計約20,200元のほかに、ナンバーの落札価格が上乗せされることとなります。庶民にとっては車を買うお金を貯めた上に、更にナンバーを買うお金まで用意しなくてはならないのです。

そこで出費を少しでも削減しようと、こうした競売制度が導入されていない隣の浙江省や江蘇省でナンバーを取得する市民もいます。これでは上海市としては台数抑制ができず収入も増えないので、市内の環状線などの主要高架道路

は朝夕のラッシュ時には上海ナンバー以外は通行を禁止するなど、渋滞緩和に併せて外地ナンバー取得にも歯止めをかけています。

また、以前、筆者の事務所に自動車販売会社から、「ナンバーの権利を高く買いますよ」と電話がかかってきたことがありました。上海市では、外資の企業や駐在員事務所に対する誘致優遇策として、ナンバー取得権を無償で提供しているため、車を必要としないこうした事業所のナンバー取得権を買い取り、これを自動車購入者へ転売しようというものです。

上海の地場産業の一つ上海汽車グループは合わせて 355 万台を販売する中国最大の自動車メーカーですが、その地元では、これからも厳しい自動車販売制限が続けられる一方、庶民や企業の対策も練られそうです。

(2011年9月)